


グループホーム みどりのうた

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		ホームの運営理念として、具体化し、朝礼で話すと共に、ケアカンファ等でも話している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎朝、朝礼の際にスタッフ全員で、理念を復唱し、意識して仕事に取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		運営理念をユニットごとの入り口に掲示しており、又、契約のときに説明をしている。このことは、契約書の重要事項に記載しています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		日常の挨拶から始まり子ども会の会合の場所として、施設を提供している。時より御近所の子供たちがたちよるばしょでもある。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		自治会活動の年4回実施される。美化活動の参加と廃品回収の参加や祭りの参加など。子ども会主催の子供みこしの休憩地点として施設が利用される。このことは、開所時から継続されています。

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者の方やその家族に体験利用や食事とお風呂の提供をしている。子ども会には、学童保育の利用を進めている。又民生委員の会合や、地域の催しに参加し、ホームのことや理念の啓発を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘事項は、直ちに改善のための会議を実施その責任者を置き達成するよう努めています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状態の報告と共に課題の確認と進捗状況の報告を通じてサービスの質の向上に生かすようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所単独の場合と久留米社会福祉事業者協議会などの活動の中で意見交換をしています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎年社外や社内研修の中で人権問題、成年後見制度について学んでいます。又自施設の利用者の中にも活用されている方がいらっしゃいます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人研修の中で虐待防止の勉強会を実施をしている。又このことについては、厳しく対応しています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	一度の説明ではなくいく度も話し合いを重ねるようにしています。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	その担当者を配置し必要であればアポがなくてもすぐに話し合いができるようにしている。経営者、管理者いずれかが対応をするようにしています。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	薬の処方が変わる時や利用者本人の状態変化については、直ちに連絡しその後の対応のあり方について、介護記録からの情報の洗い出しや、多くの情報を提示し検討するようにしています。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情相談の責任者の配置と自施設や久留米市、福岡県の窓口の連絡先等の掲示をしています。又指摘事項は、直ちに調査し改善をはかっています。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月開催されるユニット会議や全体会議当で、反映されるようにしています。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	常勤者での雇用を原則としているが、必要なときにパート勤務者の雇用もし配置効果を得るようにしている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	ユニットケアの徹底と職員の配置による混乱を最小限になるようにしています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>経験資格も採用の基準におかず広く募集しています。さらに応募に対して必ず全員の面接の実施をしています。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>特に新規採用者についての基礎研修の中で指導をしています。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内研修の充実に努めると共に久留米市社会福祉協議会の中で各種研修への参加をしています。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>久留米市の長寿介護課が働きかけ実施する。介護事業者と包括支援センターとの技術交流を中心とする。スタッフ交流を活発に行っている。NPO久留米市社会福祉協議会での研修を中心とした。スタッフ交流を行っています。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフルームの確保と休憩時間の確保に努める。さらにストレスマネジメントの研修の受講などを行う。</p>		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設目標を定め毎月のカンファにて確認する。また個人目標も定め達成するよう話し合いを持つようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	センター方式など利用しながらできるだけたくさんの情報を得ようと努力しています。さらに利用に対する不安がある場合は、体験入所等の利用もできます。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	特に家族からの情報提供は、重要と考えています。したがってここでもアセスメントツールのセンター方式などを利用しながら、できるだけ多くの情報収集を心がけています。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHIばかりではなくその他施設利用や当事業所には、小規模多機能施設も併設しているので、場合によっては、そちらの利用を進める場合もあります。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入所での利用や1ユニットの中で2グループに分け利用者間の馴染みの関係が作りやすくするように考えています。さらにもう少し時間が得られる場合は、小規模多機能の利用から馴染みの関係を作る場合もあります。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけそうした感動的な、時間を持てるよう努力しています。 けて特別な時間ではなく日常の中の新しい気づきの積み重ねと考えています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	あくまでも私ども介護者は、ご家族の代わりには、なれないものとおもいます。私たちの役割はご本人とご家族の新たな時間を築かれることのお手伝いをさせていただくことと考えます。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設入所後からは新しい関係作りが始まる。その支援をしています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	むしろ一度切れた馴染みの関係をつなぎ直すことも役割と考えています。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	パートナーシップが築けるようグループ分けをし、座る場所も配慮しながら関係の維持をしています。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後も施設行事の案内の希望がある場合、案内しながら関係が続いているご家族もいらっしゃいます。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護は、基本理念として常に本人本位の支援をすることと考えています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集を密にしています。特に、本人の状態変化や新しい気づきなどがあった場合アセスメントの取り直しをしています。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ユニットケアの徹底と職員の配置に工夫をすることによって、把握するようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	当施設においてケアプランは、担当介護者が作成しケアカンファにてケアマネージャー及び計画作成担当者との会議の中で介護計画を作成しています。多くの人がかかわることによってより多くの気づきやアイデアが生まれると考えます。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	風邪をひいたり発熱、食欲低下など比較的に小さな変化でも、ミーティングをし情報を共有し対応をしています。又変化が生じた場合1週間ごとのケアプランを見直しながら、安定するまで継続するようにしています。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、当然であるし、ケアプランの達成が、難しい場合や停滞している場合、センター方式など利用しながら、何度でもケアの見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GHで対応が難しくても、関連施設に小規模多機能施設も併設していることもあり人的にも質的にも対応できると考えます。又久留米市社会福祉事業者協議会の中でも意見交換ができます。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	その時々々の必要性にともなった協力をしています。比較的には、交流していると考えています。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	平素から、久留米市福祉事業者協議会の中で活発に交流が行われています。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	緊急の受け入れ要請などに出来るだけ答えられるようにしています。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を最優先し受診の支援も行っています。相談があればその他の医療機関との連携もしています。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	年々相談することの出来る医療機関が増えていきます。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理は医療連携によって把握しています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	早期退院の受け入れは、努めて行ってきました。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	介護、医療の両面とも確認しながら必要と考える場合は、書類による確認をしています。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度化や終末期の介護、医療の支援についての各種研修の実施と医療連携先の訪問看護ステーションとかかりつけ医との連携でのみとりも行ってきています。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	情報提供は、積極的にするようにしています。転所、転院の支援も協力するように、努めています。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	気付いた場合すぐに注意する。さらに改善されない場合、レポート提出による周知徹底をおこなっています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定の支援と自己実現の支援をしています。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、就寝時間、入浴時間等の決まりはありません。又レクリエーション等施設行事なども全員参加とは考えていません。自己決定の支援をすると考えるから。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	積極的に外出等の支援をしながら更衣の習慣性を持つこととなじみの関係の維持結び直しをしています。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	記載されてある支援は当然とし、食事の提供は、栄養士及び調理師の配置をしています。健康管理、食の安全、何より美味しくいただけてもらう事を重要と考えるためこのような対応をしています。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコ以外は、自由です。他の嗜好品の楽しみは、節度を持ってもらうために職員管理の下で支援しています。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便コントロール委員会を設置し食事、おやつ、水分摂取、運動、腹部マッサージ、最後に服薬管理をやっていきます。このことから排便、排尿のリズムをチェックするようにしています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調不良でない限り利用者の希望に合わせています。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯時間や起床時間当の定めはなく又うたた寝や昼寝の時間も必要な時間と考えています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人行事の充実と社会参加の機会を考えながら支援をしています。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でのお金の所持はしないようにしていますが外出時のお店での買い物や飲食時ご自身に支払ってもらうようにしています。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等の外出支援はしています。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	結婚式の参加や仏事の参加などの支援ときには、介護スタッフの支援はもとより介護用品や介護車の提供もしています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望の本質を見極めることを努力した上で、家族と本人の混乱を招かないよう注意を払いながらするようにしています。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間及び曜日など制限はなく自室以外開放している場所が3箇所あります。特に大勢の場合他の利用者の混乱を避ける意味でも望ましいと考えます。これまでも家族の泊まりや1日中施設内ですごされる例もありました。ほぼ毎日の訪問もあります。何も制限は考えていません。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	これまでの介護において拘束行為と思われる行為を行ったことは、ありません。又拘束に関する研修もしています。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の施錠は、拘束行為と考えるので行わないこととしている。又拘束に関する研修をしています。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	出来るだけ自然体で、言葉賭けに注意しながら、把握するようにしています。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの危険予測の上で環境を整えるようにしています。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険予測の研修と技術研修の実施		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルにて確認さらに利用者の変化でその危険性を感じるようになった場合緊急カンファや引継ぎ時にレクチャーするようにしています。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	初期避難の重要性を研修等で理解し消防の到着までの問題でなく、全ての人の非難と安全確保が出来るよう地域交流をしています。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族との話し合いで、利用者の状態変化に伴うリスクの説明と基本理念の実施に伴うリスクの存在を説明をしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	当施設においての健康管理は外部の医療連携による週一回の健康チェックと2段階の健康管理の記録をしています。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は調剤薬局との連携の下管理をしています。介護計画を考える場合薬の作用も重要になってくるので、ケアカンファや日常の申し送りから重要事項として取り扱っています。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便コントロール委員会を設置し食事、おやつ、水分摂取、運動、腹部マッサージ、最後に服薬管理をやっています。このことから排便。排尿のリズムをチェックするようにしています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	単なる歯磨きではなく個々の利用者に必要な口腔ケアを実施しています。その技術指導及び管理は、訪問歯科との連携により維持しています。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式など利用しながらできるだけたくさんの情報を得ようと努力しています。栄養面については、栄養士と調理師を配置しています。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応の研修の実施と対応のマニュアル化しています。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	基本的には、栄養士と調理師とで食事提供しています。保管その他の行為についても資格者が担当することによって、安全を保っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設玄関や敷地内に花を植えたりしています。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなどの主要の場所には、季節の草花などを飾っています。		

グループホーム みどりのうた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのグループ分けや、小人数化の対応にも配慮した空間作りをしています。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、信仰も含め全てにおいて他の利用者の迷惑にならないのであれば、制限はありません。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共用の空間での環境の配慮は勿論のことですが、個々の希望にも答えられるよう配慮しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保のための空間整備と危険予測の研修及びカンファレンスの実施をしています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お部屋の目印トイレや浴室などの表示の工夫や夜間時の照明の使い方によって、混乱を少なくするようにしています。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	生活リハビリや雨天時の活動が出来るように整備をしています。		

グループホーム みどりのうた

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム みどりのうた

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設行事の充実による地域交流も重要と考えるが、それ以上に重要視しているのが、個人行事の充実が大切と考える。それは、当ホームが位置する周辺を 地域と呼ぶのではないと考えるからで、利用者の家族やなじみのお店、友人、懐かしく思える場所等は、個々の利用者の周辺地域であるため、その途切れた関係を個人行事で結び直すよう、取り組んでいます。ここで指す個人行事とは、けしておおげさなことではなく、チョット前には、できていた日常の行為でいきつけの美容室に行く、カラオケ、琴、三味線、等の稽古などの参加やお墓参り、結婚式、などごくごく身近な個人行事のことである。そこには、大切な家族、友人、などのなじみの関係と地域があるからである。